

## モンゴル

### 2000年上半期の経済

2000年初めの雪害、5月の口蹄病により主要産業である牧畜業が深刻な被害を受け、物価の上昇に繋がるなど、モンゴルの経済にマイナスの影響を与えた。さらに、工業部門も不調であった。一方、鉱業部門が大きく生産を伸ばし、歳入の増加に寄与するとともに、主要な輸出品の国際価格の上昇から輸出額が大きく伸びた。

### 国内経済

鉱業部門の生産額が10.2%増加したのに対して工業部門が9.8%となり、鉱工業生産額は全体として前年同期比0.6%落ち込んだ。鉱業部門では、金、螢石の生産量が大きく伸びており、それぞれ42%増、31%増であった。工業部門の生産額をみると、エネルギー分野が3.1%増加、食品・飲料製造が1.1%増加した一方で、織物製造が45.2%と大きく減少した。

牧畜業は大きな打撃を受けた。上半期の成体家畜の損失頭数は289万頭で、前年同期と比較すると約5倍である。この損失頭数は、年初の家畜頭数の約8.6%に当たり、昨年の1.8%と比較すると非常に高い数値である。肉の生産量は、昨年の107.7トンから4.3トンと約96%減となり、家畜及び家畜製品の輸出額は8,185千米ドルから6,598千ドルと約20%減少した。一方、家畜及び家畜製品の輸入額は約2倍となり、羊肉の価格は昨年末比で約2倍となった。

農業部門をみると、作付面積が全体で30.5%減少している。小麦など穀類の作付面積が減少した一方、ジャガイモ、野菜の作付面積は増加している。特に、ウランバートルや

その近郊で野菜の栽培が盛んになっており、前年比で21.8%増である。

昨年10%であったインフレ率は既に17.4%となった。特に、食料品の価格の上昇が影響しており、昨年末と比較して37.9%上昇している。羊肉、にんじん、タマネギは、年末より約2倍の高値となっている。しかし、食料品以外の物価に大きな変化は見受けられない。

国家財政は、鉱業部門が好調なことや貿易が活発だったことから歳入は34%増えたが、同時に歳出も56%増加しており、財政赤字は増えた。

### 対外経済

貿易総額は、輸出、輸入の双方で大きく伸び、総額で42.3%の増加となった。輸出額が2億0,970万米ドルで52.1%の増加、輸入額が2億6,210万米ドルで35.4%の増加となり、貿易収支は5,230万米ドルの赤字となった。前年同期比で貿易赤字が350万ドル減少している。主要な輸出品である銅が金額ベースで79.5%増、螢石が20.7%増、カシミヤが75.8%増など、輸出額の増加に大きく寄与した。特に、主要な貿易相手国である中国へは羊皮が127%増、銅が79%増など、全体で53%の輸出増となっている。銅の国際価格は、前年同期より約20%高く取り引きされた。

海外直接投資額は4,435万米ドルで、昨年の同投資額の61%に当たる。上半期に最大の投資国であった日本は、昨年の約3倍の規模の1,556万米ドルを投資した。

(ERINA調査研究部研究員 浜田充)

	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	00年1-6月
鉱工業生産(前年同期比:%)	12.0	2.5	4.4	3.2	1.3	0.6
消費者物価上昇率(対前年比:%)	53.1	44.6	20.5	6.0	10.0	17.4
国内鉄道貨物輸送(百万トンキロ)	1,266.4	1,241.4	1,204.0	1,273.6	1,346.3	670.8
失業者(千人)	45.1	55.4	63.7	49.8	40.1	39.3
対ドル為替レート(トグリク、期末)	473.6	693.5	813.2	902.0	1,072.4	1,065.0
貿易収支(百万USDドル)	58.0	26.6	16.8	158.1	154.5	52.3
輸出(百万USDドル)	473.3	424.3	451.5	345.2	358.3	209.7
輸入(百万USDドル)	415.3	450.9	468.3	503.3	512.8	262.1
国家財政収支(十億トグリク)	4.7	48.3	65.1	97.5	85.0	45.1

(注)失業者数は期末値。消費者物価上昇率は各年12月、2000年は6月の値。貨物輸送、財政収支は年初からの累積値。

(出所) モンゴル国家統計局、「モンゴル統計年鑑1999」、「モンゴル統計月報2000.6」